**Q１：**

**「イチョウの街路樹はの木ばかりにすれば、銀杏で汚れないのに、なぜの木も植えるのでしょうか？」**

A：

ご質問にもありますように、街路樹として**メス**の木を植えると銀杏（ぎんなん）が道路上に落下して、拾う方々のトラブルや交通事故、独特の臭気や道路清掃の必要など、様々な不都合を生じますので、今日では**オス**の木のみを植えています。

　これに関連しまして興味深い事例を紹介いたします。

**明治神宮外苑のイチョウ並木**

イチョウは「東京都の木」、「文京区の木」となっています。都内各地に素敵な並木がありますが、明治神宮外苑の絵画館に向かう4列の並木の美しい景観は映画やTVドラマ、またCMなどの場面で多くの方が目にしたことがあるはずです。

このイチョウ並木が出来たのは大正12年（1923）のこと。明治41年（1908）に新宿御苑のイチョウから採取した銀杏（ぎんなん）を播いて育てたものです。146本の並木は1本のイチョウの銀杏（ぎんなん）から育った“兄弟姉妹”ということになります。

若木の間は性別が分かりませんが、後年になって**オス**が44本、**メス**が102本だと分かりました。しかし、このことをもって銀杏（ぎんなん）の一般的な性別割合とすることはできません。

**街路樹植栽では……**

初めに述べましたとおり、今日では**オス**のみを植栽するので、苗木生産者は**オス**の木の枝を「挿し木」をして増殖します。そして通常の街路樹設計で「イチョウ」とあれば、特に指定されない限り**オス**の木を植栽します。

　ところが…、ごく稀ですが、苗木生産者の苗圃や流通のための植え替えなどに際して**メス**の苗木が意図せずに混入することがあります。この場合、苗木・若木での雌雄見分けは出来ないので街路樹として植えられることがあり得ます。

　イチョウは花が咲くまでは雌雄の区別はできません。その理由は、一般に植物には動物に見られるような「**第二次性徴**（生殖器以外に見られる外見上の特徴：ライオンのや、ニワトリのトサカ …etc.）」がないからです。

ちなみに、葉の形や気根（乳）の有無などから雌雄を見分けるという俗説は、すべて確率が50％です。もしも、１％の確率であれば、雌雄を反対にすれば99％の確率になりますが、50％は反対にしても…、（笑）。

　ともあれ、緑化技術者にとって街路樹に**オス**の木を植えることは昭和の頃には常識となっていました。挿し木による苗木の増殖が一般化したのもこの頃です。

　一方、寺社や庭園などでは銀杏（ぎんなん）を求めて**メス**の木を指定することもあります。

**雌雄同株のイチョウを作出**

　平成11年（1999）3月、たいへん興味深い記事を目にしました。ベルリンのフンボルト大学にある**メス**のイチョウ（樹齢約150年）に明治神宮外苑のイチョウ並木から**オス**の枝を採って接ぎ木をしたというのです。欧米ではイチョウは「Meidenhair – Tree（乙女の髪の木）」と呼ばれて親しまれているそうです。独特な葉の形と真っ直ぐな葉脈が少女の髪形を想わせるのでしょう。

**おまけ……**

　「小石川植物園案内図」の「F列10番」の区画に「イチョウ品種」とあります。先日の自然散策会ではご案内できませんでしたが、「枝垂れイチョウ」、「ラッパイチョウ」などの珍しい品種が見られます。葉が茂ったころに訪ねると良いですね！

**Q２：**

**「アインシュタイン先生と杉崎さんは、お会いしたことがあるのですか？」**

A：

　残念ながら、お会いしたことはありません。

　私が日本（文京区）に生まれて数年後に、アインシュタイン博士はドイツで亡くなりました。でも…、遠く離れていても、この地球上で同じ数年間を過ごしていたのです。そのように思うと“不思議な気持ち”になりますね。

そういえば、小学校3年生の時のクラス担任は**理科**の先生でした。昼休みなどに理科室を訪ねると、骸骨模型や昆虫の標本や顕微鏡や実験器具などが並んでいます。高学年で始まった「部活」は**生物部**を選びました。中学校でも**生物部**、高校でも**生物部**…。結局、“植物ウオッチング”が生涯の楽しみとなりました。

同じように、皆様も…。きっと誰かと…。